

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	270301963
法人名	財団法人シルバーリハビリテーション協会
事業所名	グループホーム市川
所在地	八戸市大字市川町字南尻引84-1 (電 話) 0178-52-7070
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月8日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 4人、非常勤 10人、常勤換算	14人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	理美容代2,000円/回 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	8 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	シルバー病院、八戸在宅クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『私たちは、笑顔の絶えない明るく暖かな雰囲気の中で利用者様と共に行動し、個人の能力を最大限に引き出すことで自信を持っていただけるように「心に寄り添ったケア」を提供いたします。』という運営理念を掲げており、朝礼時に理念を唱和する等、職員間での共有が図られている。
 町内会に加入し、回覧板の活用や地域の行事への参加等を通して地域との交流を図るほか、広い敷地を活かして利用者と一緒に花壇を作ったり、バーベキューや花火大会を楽しむ等、利用者同士の親睦も図っている。
 同法人の医療機関や訪問看護ステーションとの連携が密に図られており、訪問看護師に健康管理に関する相談をしたり、アドバイスをもらうほか、母体である医療機関の運動会に参加する等、利用者の生活が充実するための支援が行われている。

【特に改善が求められる点】

管理者は地域密着型サービスについて理解しているが、理念にはそれが反映されていないので、全職員で地域密着を意識したケアについて話し合いを行う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込んでどうか。
 感染症予防マニュアルを整備したり、勉強会等を行っているが、今後は利用者の暮らしぶりを家族に報告する時等を活用して、流行の感染症に関する情報を家族に周知していくことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を受けて、改善点について職員間で話し合いを行っており、アセスメントの様式をより詳細なものに順次移行する等の具体的な取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は自己評価や外部評価の意義を十分に理解しており、自己評価には職員の意見を聞きながら取り組む等、ホーム一丸となって実施している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会長や民生委員、行政職員等が参加して実施されている。会議では利用者へのサービス提供状況や自己・外部評価結果の報告等を行って意見をもらい、サービス向上につなげている。また、町内会長を通じて広報紙を地域に配布する等、地域との橋渡し役を担ってもらっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) ホーム便りを活用して暮らしぶり等を伝えるほか、アンケートを実施して家族の要望等を把握するよう努めている。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内に意見箱を設置している。家族から意見等が出された時には話し合いを行って新たな介護計画作成時に反映させる等の仕組みとなっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事や会合に参加してホームの説明を行ったり、回覧板を活用して情報交換を行う等、住民に気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、見学や町内の踊りの訪問等を受け入れ、ボランティアの受け入れについても意欲的であり、地域に開かれたホーム作りを行っている。

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	開設時に管理者や全職員で話し合っ理念を作成したほか、新採用職員には必ず理念を説明する等、理念は全職員に浸透している。また、理念の他に年間目標を掲げたり、会議等で日々のケアについて話し合いを行う等、理念にそったケアを提供できるよう、職員間で意思統一を図りながら取り組んでいる。 職員個々の力量等に応じた研修を受講できるよう年間計画を作成するほか、運営者や管理者は同業者との交流の必要性を認識しており、他事業所との情報交換等を通して職員の知識を高め、広い視点でケアを提供できるよう取り組んでいる。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	相談の段階から利用者本人の視点に立った支援を心がけるほか、入居後は利用者の孤独感を和らげるために家族に面会に来てもらうよう働きかけを行い、利用者が早く馴染めるよう配慮している。 日々の作業を利用者に手伝ってもらったり、生活の知恵を教えてもらうほか、買い物やイベント等と一緒に出かけたり、喜びや楽しみを共感できるよう取り組んでいる。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	生活背景等について詳細にアセスメントを行うほか、利用者や家族の意向等を把握した上で介護計画を作成しており、利用者の希望等が優先された計画となっている。 協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られており、24時間体制での支援が受けられるほか、一人ひとりの希望に合わせた理美容院の利用等に関する支援も行われている。また、重度化や終末期に関する指針が定められており、入居時には利用者や家族に説明し、意思統一を図っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	接遇マニュアルを会議等で確認しており、利用者を尊重し、羞恥心等に配慮した対応が行われている。また、献立や入浴時間帯には利用者の希望を取り入れる等、利用者の状況に応じて柔軟に対応し、個々のペースで暮らせるよう配慮している。 ホールには天窓が設置されているため、適度な明るさが保たれているほか、テレビ等の音量も適切に調整しており、快適に暮らせる空間作りが行われている。また、木製のテーブルや椅子を設置したり、季節感のある装飾品を飾る等、落ち着いた暮らせるよう工夫している。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は地域密着型サービスについて理解している。ホーム開設時に全職員で話し合い、独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものとはなっていない。	○	全職員で地域密着を意識したケアについて話し合う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム開設時に職員で話し合って作成したものであり、全職員に浸透している。また、朝礼時には理念を唱和をするほか、採用時に説明したり、日々の会議等で理念を踏まえたケアについて話し合いを行う等、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、町内会の行事や会合に参加してホームの説明を行うほか、回覧板を活用して情報交換を行っている。また、町内会長を通じて広報紙を地域に配布する等、ホームを理解してもらい、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。見学や町内の踊りの訪問等を受け入れるほか、ボランティアの受け入れについても意欲的である。また、ホームの行事には地域の方の参加を呼びかけており、地域に開かれた事業所作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は自己評価や外部評価の意義を十分理解しており、職員の意見を聞きながら自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果はホーム内に掲示するほか、改善点を話し合い、より良いサービスを提供するよう努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町内会長や民生委員、行政職員等が参画している。会議では自己評価や外部評価の結果等を報告し、ホームのサービス向上のための意見をもらっている。また、町内会長を通じて広報紙を地域に配布する等、地域との橋渡し役を担ってもらっている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口にはホームパンフレットを配布するほか、運営面等で不明瞭な事柄が生じたときには担当課に問い合わせを行い、助言をもらっている。また、日々の状況も積極的に伝えており、いつでも相談できる関係となっている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修等を通して成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の概要について理解を深めており、利用についての相談を行える体制を整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修に参加するほか、虐待防止の本を職員に配布して理解を深め、虐待のないケアに努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、パンフレットを基に事業所の理念やケアの方針等を利用者や家族に十分に説明を行い、同意を得ている。また、利用者や家族の不安点を聞き、解消に努めている。また、退居時にも十分に説明し、必要に応じて生活歴等を退居先に提供する等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者の暮らしぶり等を家族に報告するほか、健康状態については随時報告している。また、金銭管理状況については、おこづかい帳に領収書のコピーを添付し、家族に郵送して報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の時には家族が意見等を話せるよう働きかけを行うほか、アンケートを実施して要望等を聞くよう努めている。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内には意見箱を設置している。家族から意見等が出された時には、話し合いを行って要望を介護計画に取り入れる等、今後のケアサービスにつなげている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、職員の異動は最小限にしている。異動等を行う場合には新任職員との引継ぎを十分に行う等の取り組みが行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や資格、力量に応じて内部・外部研修の年間計画を作成しており、勤務体制に配慮しながら外部研修を受講している。受講後は報告書を作成し、会議や申し送りノート等で全職員に周知している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の活動に参加するほか、他グループホームの見学等を行っており、他事業所との交流を通じて得られたことを日々のケアに反映させるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談の段階から利用者本人の視点に立った支援を心がけるほか、孤独感を和らげるために、必要に応じて家族に面会に来てもらう等の協力を働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活で作業を手伝ってもらったり、生活の知恵を教えてもらうほか、買い物やイベントと一緒に外出することを通して、喜びや楽しみを共感している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。また、本人から聞くことが難しい場合は家族から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から意向等の確認を行った上で、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。また、より詳細に個々の生活背景等を把握できるアセスメント様式に順次移行中である。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、利用者や家族の状態やニーズを把握するよう日々努めており、変化が生じたときは随時の見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の医療機関や訪問看護ステーションとの連携が密に図られており、24時間体制での支援を受けることができるほか、利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診支援も行っている。また、ユニット間での協力体制を整え、柔軟に対応できる仕組みとなっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の医療機関や訪問看護ステーションとの連携が密に図られており、24時間体制での支援を受けることができる。また、これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診支援も行っている。また、家族も含めて医療機関との話し合い等が行われており、受診結果の情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応しており、指針を定めている。入居時には利用者や家族に説明するとともに、意向を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マニュアルを整備し、研修会等で確認しており、利用者の言動を否定することなく、羞恥心等に配慮した声かけを行っている。職員は研修会等を通じて個人情報保護法について理解しており、個人に関する書類はスタッフルームに保管するほか、広報誌等に名前を掲載する場合には利用者や家族の承諾を得ている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、業務優先ではなく、個々の訴えや希望を優先したケアに努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人が献立を作成しているが、利用者の希望がある時には献立に加える等の支援が行われている。食事の時は職員が利用者のそばに居り、声かけや食べこぼし等へのさりげないサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回となっているが、時間帯は個々の希望を取り入れている。入浴時は声かけを行いながら、習慣に合わせた入浴となるよう支援している。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、足浴や清拭、着替えを促がしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントやミーティング時の情報交換等で一人ひとりの生活歴や希望、力量を把握している。また、利用者が楽しんだり気晴らしの機会となるよう、ホーム内の装飾品作りを促す等、個々に応じた支援が行われている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日はホーム内の花壇作りやプランターの収穫を楽しむほか、希望に応じて理美容院や買い物に出かける等、積極的に外出する機会を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修会や勉強会等を通して身体拘束に関する知識を深めており、職員間でケアに関する話し合いを行って最善のケア方法を検討する等、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族に説明し、同意を得る等の体制が整えられている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中は施錠しておらず、センサーを設置して外出傾向の把握に努めている。また、外出傾向を察知した時には職員が付きそう等の支援が行われている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網や夜間も想定した避難誘導策が整備されており、利用者も一緒に年2回の避難訓練を行っている。また、運営推進会議を通じて町内会に災害時の協力を呼びかけるほか、缶詰や飲料水等の備蓄品を用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士が献立を作成しており、栄養バランスや摂取カロリーに配慮された食事となっている。毎食の食事量のほか、1日2回の水分摂取量の記録が行われている。また、病状によっては医師の指示を仰ぐ等の支援も行われている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルが作成されており、新しい感染症が発生した時には見直しを行っている。また、母体と一緒に勉強会を行って理解を深めるとともに、訪問看護ステーションに相談できる体制となっている。ホーム内にうがいや手洗に関するポスターを掲示したり、洗面所に消毒液を置き、職員の手洗いを励行しているが、家族への感染症に関する情報提供を行うまでには至っていない。	○	月1回、利用者の暮らしぶりを家族に報告する時等を活用して、流行の感染症に関する情報提供を行ってはどうか。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内の花壇には季節の花が植えられているほか、玄関脇には木のテーブルと椅子が置かれており、家庭的な雰囲気となっている。テレビ等の音量やホーム内の明るさは適当であり、また、廊下等には利用者と一緒に手作りの季節感のある装飾品が飾られている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には時計や写真等の馴染みの物を置くスペースを確保する等、利用者が居心地よく過ごせるような工夫が行われている。また、利用者の意向を聞きながらカーテンを購入する等、利用者と共に個々にあった空間作りを行っている。		

※ は、重点項目。